

科目名	宗教学		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	福島 寅太郎			
開講期	I			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①本学の建学精神を理解するために必要な教養的知識を習得させる。 ②教養のある現代人として宗教に関する必要な知識を身につけさせる。</p> <p>〔授業の概要〕</p> <p>本講義は本学の建学精神に基づいた全学科・専攻の必修科目である。 宗教は人間生活のあるところ、どの時代にもどの場所にも影響を及ぼしており、現在の私たちもまた日常生活の中で常にそれらと関わっている。グローバル化が進み、異文化間の相互理解が求められる現代において、宗教は果たしてどのような役割を果たすことができるのであろうか。 本講義は、諸宗教の思想や信仰、特に現代日本およびアジアの諸宗教におけるさまざまな事例を取り上げ、宗教学的観点から探ることを目的とする。授業への理解を深めるために、アニメなどの映像を数多く取り扱う予定である。ちなみに「トトロはオスですか、それともメスですか」。素朴な疑問が学問への重要な一歩である。 本年度は、本学の学問の特徴である「生活学」に焦点を当てて、宗教と生活との関わりを考えてみたい。具体的には、当該当該問題に関連した最新の研究書を教科書として用い、当該教科書の読解を通じて理解を深めていきたいと考えている。</p>			
達成目標	<p>〔到達目標〕</p> <p>①宗教学的“ものの見方”を理解する。 ②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。</p>			
受講資格	特になし	成績評価 方法	試験成績60点、授業における発表20%、授業における参加態度20%など。理解度8割で、合とする。	
教科書	特に指定していないが、途中から必要に応じて指定する場合がある。その場合は事前に詳細を知らせる。			
参考書	特になし			
学生への要望	ノートをこまめにとること。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日（火曜日を除く）昼休みの時(12時～12時40分)。担当教員の研究室（創学館No. 5）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	ガイダンス	授業の進み方、建学精神との関連について述べるとともに、テストや成績評価などについて紹介する。教科書についても案内する予定である。	初回に当たり、とくになし。 1.5
2	生活と宗教（1）一禅の教えと歴史	具体的には禅を取り上げる。禅の歴史や基本的な教えについて、教科書に沿って述べる。アップルの創始者・ジョブズ氏は敬虔な禅の実践者である。シンプルさを追求したアップル製品を話題にしながら、生活における禅の役割を考える。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
3	生活と宗教（2）一生活の中の「禅」	前回の続き。教科書に沿って、禅とは何かを、身近な話題を通して考える。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
4	生活と宗教（3）一「生活禅」とは何か	「生活禅」とは何か。教科書を通して学びながら、一緒に考えてみる。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
5	生活と宗教（4）一だるまさん・ダルマと達磨	「達磨さんが転んだ」という鬼ごっこをみんなは一度ぐらい遊んだことがある。ここに出てくる達磨さんとは誰のことであろうか。歴史上の達磨さんと民間信仰のそれとの異同を明らかにしてみたい。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
6	生活と宗教（5）一般若心経	『般若心経』と生活禅について述べる。日常生活の中で、『般若心経』に触れる場面があると思う。ここでは教科書を用いながら『般若心経』とはどんなお経なのかを学ぶと共に、生活禅との関係を理解する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
7	生活と宗教（6）一こころと心	心とは何か。宗教は人間の不可視的なものを可視的にするものである。ここでは宗教から見た人間の心とは何かを、禅における心のとらえ方を通して理解する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
8	生活と宗教（7）一禅マンガについて	前回の続き。具体的には『十牛図』という最古のマンガを通して理解を深める。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
9	生活と宗教（8）一宗教における悩みの対処法	悩みとは何か。禅における悩みの対処法を、教科書を通して理解する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
10	生活と宗教（9）一アニメにおける宗教的要素 其の一	気分転換のために、アニメにおける宗教的要素について考察する。具体的には『となりのトトロ』を取り上げる。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
11	生活と宗教（10）一アニメにおける宗教的要素 其の二	前回の続き。ちなみに、トトロの性別はオスか、それともメスか。素朴な疑問が学問への重要な第一歩である。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	生活と宗教（11）－生活と宗教との関わり 其の一	再び教科書に戻る。「生活の中で修行し、修行の中で生活する」という教科書の著者の言葉を理解しながら、生活と宗教との関わりを考える。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
13	生活と宗教（12）－生活と宗教との関わり 其の二	前回の続き。「人間らしく生きるためにはどうしたらいいか」「人間の本質とは何か」などの問題について、教科書を参考にしつつ考えてみる。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
14	生活と宗教（13）－まとめ	これまでの授業の全体についてまとめると共に、期末テストについて説明する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5
15	最終回－まとめ其②	授業の内容を踏まえつつ、本学の建学精神である「尊敬・責任・自由」の意義を再び考えてみることにする。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。 1.5

科目名	哲学・倫理学	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	関川 悦雄		
開講期	Ⅱ		
授業概要	本授業のねらいは、人間とは何ぞや、あるいは人間の生き方・あり方は何か、あるいは物事の善悪とは何か、について自分で考えてみようという点にあります。授業内容がむずかしいように見えるでしょうが、難解な概念や原理・語句をいかに平易な言葉で語るか、が課題になります。そこで、哲学の講義では、高校時代にすでに耳にしている人物、たとえばプラトン・デカルト・ルソー・カント・ヘーゲル・フロイトらを取り上げます。倫理学の講義では、ふだんよく自身の行動における迷いや善悪や愛や生命力などの事柄を取り上げます。むろん、平易に書かれているテキスト2冊を使用します。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 各哲学者の考え・思想をまとめることができたか。 2 1で取り上げた人物の思索を内的に理解できたか。 3 倫理学上の事柄—欲求や能力、よさや良心、弱さや悪、尊重や共感の倫理的意味、愛の意味、生命をめぐる倫理的問いなどを理解できたか。 4 思想的・倫理的な考えを説明し、論述することができたか。 		
受講資格	特になし	成績評価 方法	毎回ワークシートを使用し、毎回教科書（テキスト）をいっつこのワークシートの内容空欄を埋め、どこかで必ず1回は発表することとする。評価はこれらを含めて、学期末のまとめ作成で100点とする。
教科書	竹田青嗣・現象学研究会『知識ゼロからの哲学入門』（幻冬舎）。藤野寛『高校生と大学一年生のための倫理学講義』（ナカニシヤ出版）。		
参考書	特になし。		
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を要望する。専用のノートを準備すること。		
オフィスタイト	水曜Ⅲ限（12:50～14:20）；同曜Ⅳ限（14:30～16:00）。随時、時間のあるときに相談に応じるので、下記のメール・アドレスで事前のアポをとること。ugg28553@m4.dion.ne.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	講義ガイダンス	授業の進め方やワークシートの活用、成績評価の付け方、班別討議の仕方などを説明する。	60
2	プラトン	ソクラテスのよき対話者、新しい哲学の誕生、真・善・美などを扱う。	60
3	デカルト	近代哲学の父と言われるゆえん、心身二元論、「我考える、ゆえに我あり」などを扱う。	60
4	ルソー	人と社会の幸福を問い続けた哲学者、社会契約説、自由の原理などを扱う。	60
5	カント	哲学上の対立を統一した哲学者、純粋理性のアンチノミー、絶望後の希望などを扱う。	60
6	ヘーゲル	ヨーロッパ近代哲学の完成者、弁証法、「ほんとう」の哲学などを扱う。	60
7	フロイト	「無意識」の発見者、エディプス・コンプレックス、「規定」された「自己ルール」などを扱う。	60
8	ハイデガー	「実存＝人間」から存在を捉えること、私たち自身のあり方としての世界—内—存在、「死」から出た「ほんとう」などを扱う。	60
9	すべきこと—したいこと—できること	「大学で学ぶ」とはどのようなことか、何をすべきか・何をしたいか、「自分に何ができるのか」はわからないこと、自由から生まれる悩み、倫理学は「すべきこと」について考えること、「したいこと」と「すべきこと」の関係、といった事柄を扱う。	60
10	湯加減のよさと良い心	「よさ」は多様な意味をもつこと、人間が備えるべき「よさ」を考えること、「よい生」と尊厳死、道徳判断は主観的か客観的かということ、倫理と道徳を区別して考えること、「よさ」と「理性」の関係、といった事柄を扱う。	60
11	尊重の倫理と共感の倫理—カントか、ショーペンハウアー—	複数の道徳が並存する世界、道徳の理由の複数性、カントの「定言命法」、「人を手段として利用しない」、人を軽んじないことの難しさ、ヒューマニズムと「共感の倫理」、人を尊重すると嘘がつけなくなること、といった事柄を扱う。	60
12	「愛」というおまじない言葉の魔法を解く	すべての人がすべての人を愛すべきか、愛のおよぶ範囲、愛とはえこひいきだ、性質の異なる愛、愛と道徳性、倫理学はなぜ「愛」を話題にするのか、といった事柄を扱う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
13	生命をめぐる新たな倫理的問い	科学技術の発展に対する不安、自然のコントロールと科学技術、科学技術の「進歩」への批判、危険性が予測できないことを根拠とする批判、倫理的な問いとはどんな問いか、倫理学の出る幕、といった事柄を扱う。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
14	「よい社会」について考える	「規範的・批判的」社会論と「実証的」社会論、社会を変える力は「観念」か「物質」か、人間であることを「尊重」し、個性を「承認」する社会、平等と差異をめぐる二つの姿勢、「尊重」と「承認」の両立への道筋、といった事柄を扱う。	予習・復習；レポートの作成と整理 60
15	授業のまとめ		予習・復習；レポートの作成と整理 60

科目名	文化史		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	齋藤 美保子			
開講期	Ⅱ			
授業概要	古代から現代までの郡山周辺の歴史を概観し、特に美学的な視点から本学内外の文化（詩歌、絵画、彫刻、建築等）を理解する。			
達成目標	①歴史に関する基礎的知識を習得し、郡山の歴史について自分の言葉で語れるようになる。 ②美しい日本語と美術に対して自覚的になる。 ③大学周辺で取材して、季節の俳句を実際に作れるようになる。			
受講資格	短期大学部1年生(健康栄養学科、幼児教育学科)	成績評価 方法	授業中の課題「季節の俳句」「学内の美術品解説」など(50点) 記述式の期末試験(50点) 60点以上で合格だが、80点以上を目指すこと。	
教科書	齋藤美保子著「身辺に美を見出した俳人の系譜」と「郡山女子大学建学記念講堂第一級帳小史」の抜刷を配布します。			
参考書	岩波文庫、新潮文庫、岩波新書、中公新書、講談社新書等を紹介します。			
学生への要望	本学図書館にある本の中から、何冊か推薦するので、時間を見つけて読み上げる。近隣の文化施設を活用して積極的に学ぶこと。			
オフィスタイム	火曜日16:00-17:00 金曜日16:00-17:00 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	教師の自己紹介、文化史の定義、授業の進め方等を説明する。 俳句を作り、第19回こおりやま文学の森資料館三汀賞に応募する。	秋の俳句を作る。	90
2	歴史とは何か	「歴史学」の中でも、特に「美術史」「文化史」の重要性を理解する。 レオナルド・ダ・ヴィンチ《最後の晩餐》(1455~57年制作)から15世紀イタリアの食文化を読み解く。 「美術館のような大学」と呼ばれる学内の展示品鑑賞の手引きをする。	学内の展示品を見て回り、お気に入りの作品をみつける。	90
3	近隣の歴史と日本史	大安場古墳から郡山宿まで、女子大周辺の古代、中世、近世の歴史を、いわゆる「日本史」と関連づけて理解する。	近隣の文化施設を訪ねる。	180
4	風俗美術館と図書館	風俗美術館の資料から日本史の大筋を理解する。 図書館を利用する際の注意点を確認する。	風俗美術館でお気に入りの服装をみつける。	90
5	松尾芭蕉	元禄2年(1689年)の奥羽旅行をもとに芭蕉が書いた紀行文『奥の細道』から、郡山周辺の文章と俳句を味読する。 秋の俳句実作①	配布したテキストを読んで理解を深め、俳句を作る。	90
6	幕末の女性俳句	加賀の千代女、須賀川の多代女、郡山の遊女の俳句を読み、幕末の女性の生活を想像する。 秋の俳句実作②	配布したテキストを読んで理解を深め、俳句を作る。	90
7	幕末の偉人	安積ごんさい(1791~1860)の業績と明治維新の意義を理解する。 秋の俳句実作③	國造神社を参詣して俳句を作る。	90
8	擬洋風建築と正岡子規『はて知らずの記』	安積開拓の歴史と開成館、郡山学校(金透記念館)、福島県尋常中学校(安積歴史博物館)等、郡山の近代化遺産である擬洋風建築を理解する。 正岡子規が明治26年(1893年)に『奥の細道』に就いて旅をし、新聞「日本」に連載した『はて知らずの記』を味読する。 秋の俳句実作④	開成館、安積歴史資料館を見学し、俳句を作る。	180
9	高濱虚子の俳句と群峰吟社から久米三汀の俳句	子規の写生句を継いだ高濱虚子と、郡山の俳句結社に学び新傾向の俳句を好んだ文士、久米三汀の俳句を味読する。 秋の俳句実作⑤	配布したテキストを読んで理解を深め、俳句を作る。	90
10	星野立子の俳句と女子教育	高濱虚子は女性にも俳句を勧めた。次女、星野立子の俳句を味読すると共に、大正から昭和にかけての女子教育を概観する。 秋の俳句実作⑥「会心の一句」	配布したテキストを読んで理解を深め、俳句を作る。	90
11	俳句会と学内の美術品鑑賞	互選で秋の俳句会を開く。 学内の上村松園美術展を解説する。	美術書等を調べ、上村松園の作品一点を解説できるようにする。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	創立者、名誉学園長、関口富左先生の半生	関口富左著『私の半生』（福島民遊新聞 昭和61年2月13日～3月4日）を読み、生い立ちとその人となりを理解する。	配布したコピーを繰り返し読んで、理解を深める。
13	郡山女子大学の歴史	『郡山女子大学 学園史』を読み、創立以来74年の歴史を概観する。	学内を歩き、歴史を体感する。
14	郡山女子大学の校舎	建学記念講堂の基本設計をした世界的建築家、丹下健三の業績と、戦後の建築史を概観する。 齋藤美保子著「郡山女子大学建学記念講堂第一緞帳小史」を読み、理解する。	配布したテキストを読み、理解を深める。
15	郡山女子大学の美術品	学内の第一緞帳、第二緞帳、及び、鎌田正蔵の画業を理解する。	記念講堂の空間と内装を十分に味わう。

平成31年度

科目名	日本国憲法	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	鈴木 康元		
開講期	I		
授業概要	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。		
達成目標	憲法の基本理念と人権の重要性について理解してもらいたい。 履修カルテ評価項目 ①近代的意味の憲法の意義、歴史的背景が理解できたか。 ②日本国憲法の成立における問題点が理解できたか。 ③人権の重要性と制限根拠について理解できたか。		
受講資格	短大1年生	成績評価 方法	ペーパー試験と出席状況
教科書	日本一わかりやすい憲法入門 中経出版		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	憲法および法律一般につき興味をもって欲しい。		
オフィスタイム	金曜日 授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	憲法総論①	憲法を学ぶことの意義、重要性、近代的意味の憲法について		0
2	憲法総論②	近代的意味の憲法の特徴、日本国憲法の歴史		0
3	憲法総論③	国民主権の意義、平和主義（憲法9条の解釈）について		0
4	基本的人権①	人権の概念、およびその重要性について		0
5	基本的人権②	日本国憲法の人権の内容、人権の享有主体について		0
6	基本的人権③	人権の限界、私人間における人権		0
7	基本的人権④	包括的基本権（特にプライバシーの権利を中心に）法の下での平等の意義		0
8	基本的人権⑤	内心の自由（特に信教の自由を中心に）につき判例をあげながら教える		0
9	基本的人権⑥	表現の自由の意義とその優越性について		0
10	基本的人権⑦	経済的自由権		0
11	基本的人権⑧	財産権		0
12	基本的人権⑨	その他の人権について		0
13	統治機構①	国会		0
14	統治機構②	内閣		0
15	統治機構③	裁判所		0

科目名	社会科学（政治）		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	影山 彌			
開講期	I			
授業概要	今日、私達の生活における、最も顕著な特色は、「生活の外部的化」といわれる現象である。それは、工業化という大きな経済的変化の中で起こったといえるが、元来、「家庭の生活機能」である、衣・食・住、暮らし、保育、教育、娯楽、扶養、燃料、飲み水などが、企業の商品、行政サービスなどによって取って代わられつつある状況を、「生活の外部的化」という。従って、今日、私達の生活の充実を考える上で、政治や行政が大きな焦点になる。本講義では、様々なテーマを通して、生活と政治との関わりを考える。			
達成目標	今日の生活にとって、政治の働きが不可欠であることを理解できること。			
受講資格	短期大学部全学科専攻1年	成績評価 方法	受講態度（20%）、レポート（80%）	
教科書	なし			
参考書	阿部彩「子どもの貧困」、山田昌弘「少子社会日本」、本田良一「ルポ生活保護」、関口富左「家政哲学」			
学生への要望	授業目標を毎回確認すること。			
オフィスタイト	金曜日を除く昼休み（12:00～12:50） 創学館4階No.2研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	政治化の時代について	①福祉、暮らし、生活環境など、多様な要求が政治に対して向けられていること、②政治の場において要求間の対立が起こること、③政治によって生活が管理されていること、これらの3つから、生活と政治の深い関わりをもつ現代について、政治化の時代と呼ぶ。	60
2	政治的無関心について	政治化の時代であるにもかかわらず、かなりの政治的無関心層が存在する。現代型政治的無関心といわれる、①脱政治的無関心、②無政治的無関心、③反政治的無関心、について説明し、政治的無関心の功罪について考える。	60
3	食の安全について	01年9月、日本で初めて確認された、牛海綿状脳症（BSE）を中心に考える。対策として実施された、全頭検査、飼料規制、食品安全基本法の制定、食品安全委員会、米国産牛肉の輸入条件などについて解説する。	60
4	食糧自給率の問題（1）	先進国で最低であるわが国の食糧自給率をめぐって、その主たる原因である食生活の欧米化や、戦後の農業基本法農政、などについて解説する。	60
5	食糧自給率の問題（2）	今後の最大の問題である、農産物の完全自由化をめざす環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の内容を説明し、それが、わが国の食糧自給率に与える影響について考える。	60
6	暮らしの問題（1）	増え続ける低所得層の現状を捉える。そのために、国民の相対的貧困率の上昇、若者の低所得層の問題、非正規雇用者の増大、労働者派遣法の制定と規制緩和、などについて説明する。	60
7	暮らしの問題（2）	最後の安全網（セーフティネット）といわれる生活保護の受給世帯及び受給者が急激に増大している。こうした状況をうけて、生活保護制度の概要、現状及び課題について解説する。	60
8	暮らしの問題（3）	子供の貧困が注目されてきており、それは先進国の中でも高い水準にある。子供の貧困の現状と、その子供の成長に与える様々な影響について考える。また、子供の貧困に対する、わが国の政策の現状と問題点について解説する。	60
9	少子化の問題	わが国の少子化は歯止めがかからず、むしろ次の4点から深刻化の事態にあるといえる。①日本の総人口の減少、②合計特殊出生率の低下、③未婚率の増大、④夫婦出生率の低下。こうした深刻な少子化の事態について、少子化の社会的、経済的影響、少子化の原因、少子化対策の現状及び有効な少子化対策について考える。少子化を止めたフランスの少子化対策についても解説する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
10	高齢者介護の問題	現在、わが国は、超高齢社会といわれている。それにとともに、要介護高齢者が増大し、介護の問題が国民的課題となっている。これをうけて、'00年4月、介護保険制度がスタートし、社会全体で介護の問題に当たることにした。介護保険制度の概要、現状及び課題などについて解説する。	講義資料について予習・復習する。 60
11	生活の充実を目指す政策体系	今日、工業化にともなう都市化により、都市的生活様式が全般化している。こうした現状のなかで、生活の充実のための政策体系として、シビル・ミニマムが提起されている。それは、Ⅰ社会保障、Ⅱ社会資本、Ⅲ社会保健、の3つから構成されている。それぞれの具体的内容、生活の充実との関連及び地方政治との関連性、などについて解説する。	講義資料について予習・復習する。 60
12	公的年金制度について	シビル・ミニマムの柱の一つである社会保障の中の公的年金制度について、老後の生活を支える国民年金、厚生年金、共済年金の概要と現状について説明する。	講義資料について予習・復習する。 60
13	社会資本・社会保健について	シビル・ミニマムの二つの柱である社会資本・社会保健について、この二つが特に生活の質の向上に寄与する、快適で、健康的で、安全な生活環境を整備する条件であることを捉える。	講義資料について予習・復習する。 60
14	政治を理解する枠組み(1)	政治とは、国民の要求・支持を受けて、法律や政策を作り出すことであることを理解する。このことによって、3、～13、までのことを、生活と政治との関連として正しく理解する。	講義資料について予習・復習する。 60
15	政治を理解する枠組み(2)	国民の要求・支持を受けて、法律や政策が形成される過程について、そこに参加する個人、政治団体、機構などを理解する。	講義資料について予習・復習する。 60

平成31年度

科目名	社会科学（経済）	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川 貴弘		
開講期	Ⅱ		
授業概要	本授業の目的は、生活と密接にかかわる経済の基礎知識の習得と経済学的視点の確立である。不景気・デフレーション・円高・円安・インフレーション・消費生活・生活経済等、普段からニュースや新聞で取り上げられるが、これらの経済的事象は私達の生活と密接にかわっている。これら経済的事象を経済学的視点で見る目を養うことを本授業の目的とした。		
達成目標	経済的事象を経済学的視点で見る目を養うとともに、公務員試験の経済学の問題にも対応できる力を養うことを到達目標とする。		
受講資格	短期大学部 健康栄養学科、幼児教育学科、音楽科 1年生	成績評価 方法	①小テスト30点（15点×2回） ②課題（レポート）70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	伊藤元重「はじめての経済学（上）（下）」日経文庫、他必要に応じ授業の中で紹介する。		
学生への要望	普段からニュースや新聞で取り上げられる経済関連の問題について関心を持つようにすること。		
オフィスタイトム	火曜日 2コマ 水曜日4コマ 経営管理学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容
1	ガイダンス・経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について解説する。 経済学とは何かを説明する第一の例としてインフレーションとデフレーションを取り上げ、両者が私達の生活に与える影響について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。 30
2	経済学とは何か②	第二の例として円安と円高を取り上げ、両者が私達の生活にどのような影響を与えるのかについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。 30
3	経済学とは何か③	経済学をめぐる行われてきた政策論争（自由貿易vs保護貿易）について学修することを通じて経済学への理解を深める。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。 30
4	消費生活と経済①	消費と消費者の概念について、消費者の権利と責任について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。 30
5	消費生活と経済②	様々な消費者問題とクーリングオフについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。 30
6	消費生活と経済③	グリーンコンシューマーとフェアトレードの概念について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。 30
7	消費生活と経済④	消費生活と経済について総まとめ。 小テスト1回目	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。 30
8	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査①	世界と日本の家計研究の歴史について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。 30
9	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査②	エンゲルの法則とエンゲル係数の概念について学修する。	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習しておくこと。 30
10	生活と経済－エンゲルの法則と家計調査③	近年のエンゲル係数の動向について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。 30
11	マクロ経済学の基本と日本経済①	マクロ経済学（Macro Economics）が分析の対象とするGDP（国内総生産）の計算方法とその意味する点について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。 30
12	マクロ経済学の基本と日本経済②	日本と世界のGDPのデータを通じて、それが意味するものについて学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。 60
13	地域経済～郡山市の経済について①	地域経済とは何かを解説した上で、私達が住んでいる郡山市の経済とその特徴について学修する。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。 60
14	地域経済～郡山市の経済について②	郡山市の経済とその特徴について学修する（前回の続き）。	配布したプリントの内容を読んでおくこと。併せてレポートを作成すること。 60
15	まとめ	これまでの学修内容を確認する。 小テスト（2回目）	これまでの学修内容をノート・プリントを通じて復習し、小テストに備えること。 60

科目名	自然科学（物理）	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	Ⅱ		
授業概要	本講義では物理学における基本的な概念を把握し説明できるようになることを目指す。そのために物理学において最も基本的な分野である力学を学ぶ。学んだ力学をもとに生物の物理学および音の物理学を学び、他分野における物理学の役割を理解する。		
達成目標	本講義では物理学における基礎概念の理解および物理学の役割の理解のために、(1)物理学の考え方を理解し基本的な物理法則を説明できること、(2)エネルギーなどの諸概念を理解し現象と結び付けられること、を目標とする。		
受講資格	とくに定めない。	成績評価 方法	課題(理解度の確認) 2回・理解度確認ペーパーの提出による。配点割合は課題が各 40%、理解度確認ペーパーの提出を 20% とする。なお課題は得点分布などを加味し、平均点などの調整を行うことがある。課題実施時の持ち込みは、自筆記入による A4 用紙 1 枚 (表裏記入可) のみに限る。
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	とくに定めない。		
学生への要望	日常の現象に対して、なぜその現象が起こったのか自ら考えてみることを。		
オフィスタイト	月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 火曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koryama-kgc.ac.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	イントロダクション	本授業の目標を示し、内容を概説する。また評価方法や教科書などについても述べる。また本授業で要求する基礎能力について説明する。本時では、本講義で必要となる基礎定数・文字式の扱いについて学習する。	本時の復習として、文字式の基本的な扱いを確認すること。	20
2	指数・単位・次元	指数を用いた表現方法について学習する。一般に物理量は単位を有することを知り、具体的な単位に m, cm, kg, g, sec などがあること、また速さなどの単位は、これらの単位の組み合わせとなっていることを理解する。この一般化として、日常の単位は長さ・質量・時間の三つの量の組み合わせで作られることを理解し、次元の概念を学ぶ。	本時の復習として、指数法則・負の整数乗・分数乗について確認をすること。また次元解析とはどのような解析方法であるか具体例で確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	60
3	力と運動：ニュートンの3法則	運動の法則について学ぶ。速度と運動状態の関係に着目し、速度の変化には力が関わっていること、質量とは速度変化のしにくさであることを学ぶ。また物体間に働く力の関係として作用と反作用の関係を学び、日常現象から天体現象まで、同一の法則に支配されていることを認識する。	本時の復習として、ニュートンの三法則の内容を確認し、整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	90
4	保存則	保存則に着目すると現象の理解が容易となる。保存則と関係するエネルギー・運動量・角運動量を導入し、相互作用の前後でこれらの物理量が保存されることを学ぶ。さらにエネルギー問題・交通事故と速度の関係・自転車の運転などを保存則の観点から理解する。	本時の復習として、エネルギー等の物理量の定義とその意味、保存則の種類を確認すること。また日常の現象と保存則の関係を整理すること。	90
5	保存則とエネルギー伝達	空間の次元とエネルギーの伝わり方について実験を通して学習する。音は波であって、音の大きさは波の振幅と関係することを学ぶ。音の広がり方に着目し、エネルギー保存の観点から音の弱くなり方について理解する。また音との類推から放射線の強度についても放射線源からの距離により放射線強度が弱まることを理解する。(平面に分布している場合はどこでも同じになることについても触れる)	本時の予習として、エネルギー保存則の内容を確認しておくこと。本時の復習として、エネルギー保存則と空間の関係を整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
6	圧力	圧力の意味を理解し、日常での扱われ方について学ぶ。力は運動を定める基本的な要素であるが、日常では多数の粒子が関与するため力で扱うと不便なことがある。実際の現象では平均化された力である圧力を用いる方が適切な場合がある。ここでは圧力の計算方法を理解し、大気圧の大きさ、大気圧の生み出す現象(風)、圧力差の利用(サイフォン)などにより圧力と現象との関係を説明できるように学ぶ。より理解を深めるために、授業では体重による圧力に関する簡易実験を行い、圧力と力の違いの理解をはかる。	本時の復習として、圧力の定義を確認すること。また圧力の単位の関係を整理すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
7	生物の物理学：生物の大きさ	あらゆる現象は物理法則に支配されており生物も例外ではない。これまでに学習した空間の次元やエネルギーの観点から、暑さの感じ方の違いや巨大な生物の存在の有無を理解できることを学ぶ。具体的に人間などの大きさや体重などを参考にし、空想上の生物が存在しうかについて次元解析を用いて考察する。	本時の予習として、次元解析の内容を確認しておくこと。本時の復習として、自分自身の身体において高さ(身長)・横幅・前後の厚みを2倍にした場合の体重を計算してみること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	45
8	生物の物理学：ダイエットの物理学	ダイエットをエネルギーの視点から考えなおすことで、ダイエットにどのような物理的制約があるのか理解する。ダイエットで用いられるエネルギーの単位であるカロリーと物理的に定義されたジュールの関係を理解し、エネルギー保存則を加味した場合にダイエットすることの物理的な意味を考える。また運動している物体の有するエネルギーなどと食品などのエネルギーを比較することで、運動によるエネルギー消費の程度を検討する。	本時の予習として、エネルギー保存則の内容を確認しておくこと。本時の復習として、再度、運動や食品のエネルギーの値を比較してみること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	20
9	課題1	学習してきた内容の理解度をチェックする。力や圧力といった概念やエネルギー保存則などを理解できているか確認する。また次元解析などを用いた質量や密度などの簡単な評価をすることができるか確認をする。これらの事項の理解度に応じ追加の説明をする。	本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。	120
10	地球の諸性質	地球に関する大きさ・質量と構造を学ぶ。かつて地球の大きさを太陽光と地球上の2地点の距離を用いて算出したが、本講義ではスマートフォンを利用して地球の大きさの測定を試みる。	本時の予習として、地球の半径・周の長さを調べてみる。本時の復習として、円周の計算方法を確認すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
11	音の物理学：波の性質1	音とは空気の疎密波であることから、波の物理的性質について学ぶ。波の有するは振幅(波高)・波速・波長およびこれらと関係付けられる周波数(振動数)を理解する。また波の特徴的な性質である、縦波と横波・回折・干渉(重ね合わせの原理を含む)・反射・屈折について理解し、なぜ直接見えない音源の音が聞き取ることができるのか説明できるように学ぶこととする。	本時の復習として、波の物理的特徴を全て整理すること。また波の性質も列挙すること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	20
12	音の物理学：波の性質2	波の性質である「重ね合わせの原理」とは何か復習し、数学上はあらゆる波が正弦波の重ね合わせとして表現できる(フーリエ展開)ことを学ぶ。また固定端と自由端での波の挙動について理解する。波の重ね合わせの結果として定在波と呼ばれる波が生じることを学び、定在波の映像や音による定在波の実験を通じ、定在波について理解を深める。	本時の復習として、日常現象における定在波(定常波)の例を調べてみる。また自由端と固定端での波の挙動について理解する。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30
13	音の物理学：声と音	人間の音に対する認識である、音量(音の大きさ)・音程(音の高低)・音色と物理的な性質との対応を学ぶ。音の大きさは波のエネルギーと関係していること、音の高低は周波数と関係していることを理解する。また音色は音の物理的な特性とは関係がなく、波の形状によって定まることを学ぶ。具体的に理解するため、受講生の声を録音し、受講生の声の波形やスペクトルを観察する。	本時の復習として、音量・音程・音色と波の諸量との対応をまとめること。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	共振・共鳴(力学)	<p>共振・共鳴は、効率的にエネルギー伝達が起こる現象である。このため振動現象の中でも大きな事故を引き起こしうる。共振・共鳴とはどのような現象かを理解し、破壊的な現象が起きうることを理解する（タコマ橋の崩壊・地震と長周期振動）。</p>	<p>本時の復習として、講義内で示した以外の共振現象を調べてみる。 ※理解度確認ペーパーの返却があった場合は内容を確認すること。</p> <p align="right">30</p>
15	課題2	<p>音に関する諸事項や共振・共鳴について理解できているか確認する。波の物理的性質・音色と音の性質と関係などを理解できているか確認する。また共振・共鳴とは何かといったことや、共振・共鳴に関係する現象を把握しているか確認する。これらの事項の理解度に応じ追加の説明をする。</p>	<p>本時の予習として、これまでの内容を整理すること。本時の復習として、課題実施後に説明した内容について再確認すること。</p> <p align="right">120</p>

科目名	自然科学（化学）		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	坂上 茂			
開講期	II			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 栄養士とフードスペシャリストに必要な化学の知識を習得する。 [授業全体の内容の概要] この授業は短期大学部健康栄養学科の学生を対象に卒業必修科目として開講する。栄養士とフードスペシャリストを目指す学生にとっての重要な基礎となる化学について講義する。高校で化学を履修していない学生のため、元素の種類・周期表・元素記号、化学結合、分子と化学式など化学の基礎的な内容（高校の基礎化学）を含めて講義する。さらに有機化学について専門科目の食品学や生化学を理解するために必要な内容を扱う。</p>			
達成目標	<p>[授業終了時の達成課題（到達目標）] 生体や食品に含まれる化学物質について、化学構造に基づいて性質、特徴や役割を理解することを目指す。授業内容のおおよそ8割以上の理解を目指す。</p>			
受講資格	特になし。	成績評価 方法	提出物（10%）と筆記試験（90%）で評価する。60点以上で単位を認定する。	
教科書	図表から学ぶ化学 第2版、2008、浜島書店（名古屋）1,600円＋税			
参考書	1. 高校の化学の教科書・参考書。 2. 伊藤ら訳「生命科学のための基礎化学（無機物理化学編）、（有機・生化学編）」、丸善出版。			
学生への要望	授業をよく聞き、授業に集中してノートを取る。授業中には問題演習も行い、また課題も提示するので自ら積極的に取り組んで理解を深めるよう努力すること。特に、高校で化学を学んでいない学生や自信がない学生は予習もしっかり行い必要な知識を身に付けるよう希望する。問題演習では電卓を用いるので持参すること。			
オフィスタイム	木曜日、水曜日 12時00分～12時30分 生化学・栄養学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	原子	原子の基本構造（陽子と中性子からなる原子核、電子）、質量数と同位体、原子量、電子殻と電子のオービタルについて説明する。原子量の求め方について計算の問題演習を行う。	40
2	元素の周期と周期表	最外殻電子の配置によって生じる原子の周期と周期表の見方について講義する。	60
3	イオン	原子の最外殻電子の配置とイオンの形成について講義する。	60
4	化学結合と分子	弱い結合（イオン結合）と強い結合（共有結合）について、元素の電気陰性度から説明する。また、共有結合による分子の形成と極性分子・非極性分子と水溶性について講義する。	40
5	物質質量（モル）	アボガドロ数とモル（mol）の概念理解のため、原子量、分子量、式量とモルについて講義する。さらに、電卓を用いて、モルと質量について計算の問題演習を行う。	90
6	化学反応式	モルの概念を使って、化学反応式の書き方と化学反応式が表す意味を説明する。問題演習も行う。	120
7	酸と塩基	アーレニウスの酸・塩基、ブレンステッド・ローリーの酸・塩基。水素イオン濃度と水素イオン指数（pH）について講義する。	60
8	中和反応と塩	強酸・弱酸と強塩基・弱塩基、酸・塩基の価数、中和反応について講義する。また、中和反応で生じる塩の性質について説明する。中和反応の化学反応式について問題演習も行う。	120
9	有機化合物と脂肪族炭化水素	炭素原子、水素原子、酸素原子の電子軌道と共有結合について説明した後、アルカン、アルケン、アルキンの種類と構造について講義する。特に、構造式の表し方を理解することが重要である。	90
10	含酸素有機化合物 I	酸素原子を含む有機化合物の中で、アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸の構造、分類、性質について講義する。	60
11	含窒素有機化合物	窒素原子の電子軌道と共有結合について説明した後、アミン類の構造、分類、性質について講義する。特に第一～第三アミンと第四アンモニウムイオンについての理解を目指す。	60
12	芳香族化合物	ヒュッケル則に従う芳香族化合物に於ける電子の共鳴、構造式の書き方、芳香族の特徴を説明する。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
13	異性体	構造異性体（鎖型異性体、官能基異性体、位置異性体）と立体異性体（幾何異性体、光学異性体）の種類と構造の表し方について講義する。	教科書で予習し、ノートと配布物で復習する。 120
14	有機化合物の構造と名称	有機化合物の構造の略記方法と命名法の基礎について講義する。	教科書で予習し、ノートと配布物で復習する。 60
15	まとめ	授業をまとめて振り返り、問題演習を行う。	教科書、ノートと配布物で復習する。 200

科目名	自然科学（化学）		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	伊藤 哲章			
開講期	Ⅱ			
授業概要	私たちの生活は、10年前と比べるとずっと便利になっています。この違いをもたらしたのは科学の力です。19世紀後半から盛んになった科学の研究が、現在の私たちの生活環境を豊かで快適なものへと導いてきたのです。この授業で学習する化学は、このような科学の中で、「もの」を対象とする分野を扱います。			
達成目標	「もの」とは、実体、つまりかたちや重さのあるもののことです。どんなに優れた法則や原理も、それを生活の中に応用するには、「もの」がなくては実現できません。皆さんには、自分の身のまわりにあるものを眺め、私たちの生活を豊かで快適なものにするのに、化学がどのように貢献しているかを理解してほしいと思います。			
受講資格	短大全学科1年生	成績評価 方法	期末に筆記試験を行い、授業内容のおおよそ80%以上の理解をもって単位を認定する。筆記試験50点、レポート50点とする。	
教科書	授業内で指示する。			
参考書	高校で使用した教科書・参考書等の復習を勧める。			
学生への要望	授業中はしっかりノートをとり、集中して受講する。			
オフィスタイム	木曜日3限～4限 金曜日4限 場所 821研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	化学と人間生活（1）	私たちの祖先は、古代から多くの物質を発見し、その性質を調べ、それを利用してさまざまな道具を発見してきた。化学とは、この物質の成り立ちや構造・性質などを調べたり、新たな物質をつくり出したりする学問である。	私たちの祖先が、古代から多くの物質を発見したが、その具体例を調べてまとめる。
2	化学と人間生活（2）	新しい物質の研究や利用は、まさに文明を進歩させる原動力といえる。古代の人々が知っていた物質はごくわずかであったが、現在では数千万種類もの物質についての知識が蓄えられており、豊かな快適な生活を支えている。化学という学問が、私たちに対してどのようにかわりあっているのか、人類の歩みと現代の日常生活の中から考えてみる。	古代の人々が知っていた物質はごくわずかであったが、その具体例を調べてまとめる。
3	物質の構成（1）	私たちの生活は、さまざまな物質に支えられている。物質はそのまま使われるばかりでなく、別の有用なものに作りかえられたり、新たにつくられたりしている。ここでは物質の学習の第一歩として、物質の分類や精製法について学習する。	物質の分類や精製法について調べて、まとめる。
4	物質の構成（2）	私たちの生活は、さまざまな物質に支えられている。物質はそのまま使われるばかりでなく、別の有用なものに作りかえられたり、新たにつくられたりしている。ここでは物質の学習の第一歩として、物質の三態について学習する。	物質の三態について調べて、まとめる。
5	物質の構成粒子（1）	原子は、古代ギリシアの哲学者であるデモクリトスによって、それ以上分けられない粒子として提案され、アトムと呼ばれていた。20世紀には原子の存在が直接確かめられるようになり、現在では原子の実像が見られるだけでなく、それを操作することもできる。このような原子の性質について学習する。	原子の性質について調べてまとめる。
6	物質の構成粒子（2）	原子は、古代ギリシアの哲学者であるデモクリトスによって、それ以上分けられない粒子として提案され、アトムと呼ばれていた。20世紀には原子の存在が直接確かめられるようになり、現在では原子の実像が見られるだけでなく、それを操作することもできる。このような原子の構造について学習する。	原子の構造について調べてまとめる。
7	粒子の結合（1）	私たちの身のまわりの物質は、原子やイオンなどの粒子からできており、その多くは粒子どうしが結合した集合体である。粒子どうしの結合には原子の性質が関係していて、結合のしかたには一定の規則がある。ここでは、結合のしかたとそれによってできた物質の性質について学習する。	結合の種類に応じて、物質の性質を調べてまとめる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
8	粒子の結合 (2)	私たちの身のまわりの物質は、原子やイオンなどの粒子からできており、その多くは粒子どうしが結合した集合体である。粒子どうしの結合には原子の性質が関係していて、結合のしかたには一定の規則がある。ここでは、結合のしかたとそれによってできた物質の用途について学習する。	結合の種類に応じて、物質の構造を調べてまとめる。	30
9	物質と化学反応式 (1)	化学では、物質の量を表すのに物質質量を用い、その単位としてmolが使われる。この章では、なぜ物質質量が使われるのか、molとはどのような単位なのかについて学ぶ。また、化合や分解のような化学反応において、反応前後の質量や体積の関係について考えていく。	化学反応において、反応前後の質量や体積の関係について調べてまとめる。	30
10	物質と化学反応式 (2)	化学では、物質の量を表すのに物質質量を用い、その単位としてmolが使われる。この章では、なぜ物質質量が使われるのか、molとはどのような単位なのかについて学ぶ。また、化合や分解のような化学反応において、molを単位とした物質質量を中心に考えていく。	化合や分解のような化学反応において、molを単位とした物質質量を中心に調べてまとめる。	30
11	酸と塩基の反応 (1)	酸と塩基は、多くの物質に含まれ、身のまわりのさまざまなところで利用されている。例えば、食べものや飲みものの酸味は酸の特性によるものである。この単元では、水溶液の酸性・塩基性の強弱の原因や表し方について学習する。	水溶液の酸性・塩基性の強弱の原因や表し方について調べてまとめる。	30
12	酸と塩基の反応 (2)	酸と塩基は、多くの物質に含まれ、身のまわりのさまざまなところで利用されている。例えば、食べものや飲みものの酸味は酸の特性によるものである。この単元では、中和反応が起こっているときの酸と塩基の量的関係などについて学習する。	中和反応が起こっているときの酸と塩基の量的関係などについて調べてまとめる。	30
13	酸化還元反応 (1)	物質が酸素と化合したり、水素化合物から水素が奪われたりするとき、その物質は酸化されたという。しかし、電子の授受で考えると、酸素や水素が関係しないような酸化還元反応まで説明することができる。この単元では、金属のイオン化や還元反応の利用について学習する。	金属のイオン化や還元反応の利用について調べてまとめる。	30
14	酸化還元反応 (2)	物質が酸素と化合したり、水素化合物から水素が奪われたりするとき、その物質は酸化されたという。しかし、電子の授受で考えると、酸素や水素が関係しないような酸化還元反応まで説明することができる。この単元では、酸化還元反応のしくみについて学習する。	酸化還元反応のしくみについて調べてまとめる。	30
15	化学反応と熱	化学反応の前後における量的関係(物質質量・体積・質量の関係)については学習した。この単元では、化学反応に伴う熱とその量的関係について学習する。化学反応によって発生または吸収するエネルギーは、熱として現れることが多いが、電気として現れる場合もある。例えば、電池は化学反応により発生するエネルギーを電気エネルギーとして利用したものである。	化学反応の前後における量的関係(物質質量・体積・質量の関係)について調べてまとめる。	30

科目名	自然科学（生物）	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	金子 依里香		
開講期	I		
授業概要	<p>[授業の目的] 人はヒト (Homo sapiens) という生物であり、私たちが生活するうえで、ヒトである自分を知ることは大切なことである。ヒトのからだについて理解を深めるとともに、生物におけるヒトの位置づけについても考える。</p> <p>[内容の概要] ヒトの細胞、代謝、生殖と発生、免疫、遺伝子および人体の成り立ちといった内容について学習する。</p>		
達成目標	[到達目標（授業終了時の達成課題）] からだのしくみや生体内で起こる現象についての概要を理解し、「ヒトの生物学」についての基礎知識を身につける。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	授業中に課すレポートおよびミニテスト20点、期末試験80点の100点満で評価し、60点以上で単位を認定する。
教科書	小野廣紀・内藤通孝著 「わかる生物学—知っておきたいヒトのからだの基礎知識—」 (株)化学同人、京都（2016・第11刷） 1,800円（税別）		
参考書	高校で使用した教科書・参考書等の復習を勧める。		
学生への要望	授業前には、シラバイの授業内容欄にある教科書の範囲に目を通すとともに、「key words」について調べておくこと。また、授業中はしっかりノートを取り、集中して受講すること。授業後には配布物をまとめ、ノートを整理すること。		
オフィスタイム	月曜日の5コマ目と金曜日の3コマ目。 担当教員研究室（家政学館2階 生理学研究室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	細胞の構造と機能（1）	初めに、生物学史の概要を学び授業の流れを確認する。 生物を構成する最小の単位である細胞について学ぶ。 細胞内に存在する、核、ミトコンドリア、ゴルジ体、などの細胞内小器官とその働きについて理解する。 Key words：自然発生説、細胞説、細胞小器官(pp1-4)	授業前に左記教科書の範囲に目を通しておくこと。また、高校で使用した教科書を復習しておくことが望ましい。授業後には配布物をまとめノートを整理すること。	90
2	細胞の構造と機能（2）	1回目の授業に引き続き、細胞が集まり生物のからだ が構成されていることを学び、理解する。 Key words：細胞、組織、器官、器官系(pp5-15)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物をまとめノートを整理すること。	60
3	細胞の分裂と増殖	体細胞分裂と減数分裂について、それぞれの分裂過程、 相違点および共通点を比較し、体細胞と生殖細胞の 違いを理解する。 Key words：体細胞、体細胞分裂、生殖細胞、減数 分裂、相同染色体、二価染色体(pp16-19)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物をまとめノートを整理すること。	60
4	生殖、発生そして誕生	生殖の方法である、有性生殖と無性生殖の違いについて 学ぶとともに、ヒトの精子形成と卵形成、受精、発生、 誕生について理解を深める。 Key words：有性生殖、無性生殖、配偶子、受精、 妊娠(pp20-21)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物をまとめノートを整理すること。	60
5	食べ物からエネルギーを作る（1）	エネルギーを作り出す分子である、アデノシン5'-三リン酸 (ATP) について学ぶ。呼吸のうち、内呼吸とは細胞内で グルコースなどを分解し、必要なエネルギーを取り出す 反応であることを理解する。 Key words：外呼吸、内呼吸、ATP、ADP(pp23-27)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物をまとめノートを整理すること。	60
6	食べ物からエネルギーを作る（2）	好気呼吸は解糖系、クエン酸回路、電子伝達系の3段階 で行われることから、それぞれの反応について学び、 食べ物からエネルギーをつくるしくみを理解する。 Key words：好気呼吸、解糖系、クエン酸回路、 電子伝達系(pp27-32)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物をまとめノートを整理すること。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
7	食べ物からからだをつくる (1)	食べ物を構成する糖質、タンパク質、脂質の消化のしくみと、消化にかかわる酵素の働きや特徴について学ぶ。この回では、からだは食べ物からどのようにしてできるのかを総合的に理解する。 Key words: 糖質、タンパク質、脂質、酵素、肥満 (pp33-41)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物等をまとめノートを整理すること。
8	食べ物からからだをつくる (2)	前回に引き続き、食べ物を構成する糖質、タンパク質、脂質の消化のしくみと、消化にかかわる酵素の働きや特徴について学ぶ。この回では、糖質、たんぱく質、脂質の構成について理解する。 Key words: 糖質、タンパク質、脂質、酵素、肥満 (pp33-41)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物等をまとめノートを整理すること。
9	血液の働き	血液の働きや血球成分について学び、細胞の1つひとつの生命活動を支えているのが血液であることを理解する。 Key words: 血球成分、血漿成分 (pp43-50)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物等をまとめノートを整理すること。
10	神経系とホルモン	生体内の内部環境を維持するために、重要な役割を果たしているのが神経系および内分泌系であることを理解する。神経系では交感神経と副交感神経について、ホルモンについては主に、成長ホルモン、男性ホルモン、女性ホルモン、血糖値の調節を行うインスリンやグルカゴンを取り上げて説明する。 Key words: 交感神経系、副交感神経系、ホルモン (pp53-60)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物等をまとめノートを整理すること。
11	免疫系	免疫系の働きとは、抗原と言われる異物の生体進入を防いだり、抗原の排除を行い生体の内部環境を守ることであることを学び、免疫の分類やしきみについて理解する。 Key words: 自然免疫、獲得免疫、抗原、抗体、アレルギー (pp60-66)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物等をまとめノートを整理すること。
12	遺伝 (1)	親から子どもへ情報が伝わる仕組みを理解するために、メンデルが行ったエンドウ豆の実験について理解を深め、メンデルの法則から血液型などの身近な遺伝について学ぶ。 Key words: メンデルの法則、不完全優性、複対立遺伝子、組み換え、連鎖 (pp69-74)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物等をまとめノートを整理すること。
13	遺伝 (2)	性に関する遺伝について理解するため、性の決定、有性生殖の可能性について学ぶ。また、遺伝病や突然変異についても理解を深める。 Key words: 性染色体、常染色体、伴性遺伝 (pp75-78)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物等をまとめノートを整理すること。
14	遺伝子の本体 (1)	遺伝現象の本体であるデオキシリボ核酸 (DNA) 解明の歴史を理解するため、遺伝子の本体がDNAであることの発見や、DNAの二重らせん構造解明に至るまでを学ぶ。遺伝暗号表の読み方についても理解する。 Key words: 二重らせん構造、アデニン、チミン、グアニン、シトシン (pp79-89)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物等をまとめノートを整理すること。
15	遺伝子の本体 (2)	遺伝子をもとに、あらゆるタンパク質が合成されることを学ぶ。さらに、遺伝子組み換え作物や動物についても理解を深める。 Key words: 伝令RNA、運搬RNA、リボゾームRNA、遺伝情報の転写 (pp89-93)	授業前に左記教科書の範囲に目を通し、key wordsについて調べておくこと。授業後には配布物等をまとめノートを整理すること。

科目名	自然科学（生物）		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	伊藤 哲章			
開講期	Ⅱ			
授業概要	地球上には、現在、約175万種におよぶ多くの生物の存在が確認されている。これらの生物は、種類によって形や性質が異なり、それぞれ違った生き方をしている。しかし、個々の生物を精細に観察し、その結果を集約してみると、「生きもの」としての共通した特性のあることに気づく。多様な生物界にみられるこの共通する特性は、生命の基本的な性質を示すものと考えられる。これらの基本的な性質の理解を深めていく。			
達成目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方を養う。			
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	期末に筆記試験を行い、授業内容のおおよそ80%以上の理解をもって単位を認定する。筆記試験50点、レポート50点とする。	
教科書	指定なし			
参考書	高校で使用した教科書・参考書等の復習を勧める。			
学生への要望	授業前には、教科書の範囲に目を通しておく。授業終了後は、教科書の各章末にある練習問題で授業内容の理解度を確認する。			
オフィスタイム	木曜日 3限～4限 金曜日 4限 場所 821 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	生物のからだのつくり (1)	生物の構造と機能の基本単位である細胞について学ぶ。細胞のはたらきは、細胞小器官（オルガネラ）の分業により効率よく営まれる。ヒトのからだをつくる細胞とは根本的につくりが違うのが原核細胞である。原核細胞は目に見えないが、身近な存在でもある。	原核細胞について調べてまとめる。
2	生物のからだのつくり (2)	ウイルスという言葉はよく聞かすが、多くの人々が誤解している。ウイルスは細胞ではないし、自分で増えることができない。細胞膜は単なる細胞の包みではない。いろいろな機能をもっている。細胞に必要なものを選択して取り込むのも重要なはたらきのひとつである。	ウイルスについて調べてまとめる。
3	細胞の増殖（1）	ウイルスは人工的に合成できるが、細胞をゼロから人工的に合成したという報告はまだない。つまり、細胞は細胞からしかつくられない。ここでは、細胞の基本性能である細胞分裂をみていく。減数分裂は世代間をつなぐ細胞分裂である。減数分裂によってつくられる卵や精子は、受精にそなえてゲノムが半分になる。染色体の動きに注目して、その過程をみていく。	減数分裂について調べてまとめる。
4	細胞の増殖（2）	ヒトの配偶子をつくるための準備は、すでに胎児期に始まっている。卵がつくられる過程では、胎児期に始まった減数分裂が受精後に完了する。配偶子をつくるということは、生物にとって一大仕事である。	ヒトの配偶子形成について調べてまとめる。
5	生殖と発生（1）	生殖とは子をつくつことである。生物によってその方法はさまざま、どの生殖法もそれぞれ生物に適したものになっている。どんな生物も、生殖によって種を存続させるとともに、より強い子孫を残すための工夫をしている。	動物の生殖法について調べてまとめる。
6	生殖と発生（2）	ヒトのからだは約60兆個もの細胞できている。これらのすべては、たった1個の受精卵から生じたものである。しかし、単に受精卵が細胞分裂しただけでは統制のとれたからだにはならない。そこには細胞の分化が必要である。	ヒトの受精卵について調べてまとめる。
7	遺伝（1）	ここでは、遺伝子が親から子へと伝えられるときにみられるルール、すなわち遺伝の法則について学ぶ。ヒトを含む多くの陸上動物の性は、性染色体の組み合わせによって決まる。まずは、性染色体がどのように子へと受け継がれるかみていく。	ヒトの遺伝子について調べてまとめる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
8	遺伝 (2)	性染色体の遺伝子による形質の発現は、男女間で違いがある。ここでは、その例をみていく。ヒトの性染色体にも当然遺伝子が存在する。しかし、男性だけがもつY染色体にある遺伝子の数は少ないうえに、そのほとんどは精巣をつくったりするための男性専用の遺伝子である。	性染色体について調べてまとめる。 30
9	遺伝子のはたらき (1)	ここでは、遺伝子の実態について学習する。遺伝子はどんな素材からできていて、どんな形をしているのか。そして、遺伝子のはたらきとはどういうことなのか。遺伝子としてはたらく物質に必要なとされる条件は、①分子構造の中に情報を保存できる、②その情報を簡単に複製できる、の2つである。	遺伝子の分子構造について調べてまとめる。 30
10	遺伝子のはたらき (2)	遺伝子のはたらきを発現という。転写は遺伝子発現の第一歩で、転写の過程にも、塩基の相補性が関わっていて、うまく情報が写し取られている。たった4文字で記述された遺伝情報が、タンパク質に変換される過程が翻訳である。	塩基の相補性について調べてまとめる。 30
11	バイオテクノロジー (1)	特定の遺伝子をはたらかなくしたマウスをノックアウトマウスという。ノックアウトマウスは、現在の遺伝子研究にはなくてはならない存在である。ここでは、ノックアウトマウスがどのようにつくられていくかを見ていく。	ノックアウトマウスについて調べてまとめる。 30
12	バイオテクノロジー (2)	iPS細胞 (人工多能性幹細胞) はどのようにしてつくられるのか。そして、実用化までにクリアしなければならない課題には、どのようなものがあるか。	人工多能性幹細胞について調べてまとめる。 30
13	呼吸と光合成 (1)	生物のからだの中では、さまざまな化学反応が進行している。そして、これらの化学反応のほとんどは、酵素によって進められる。食物から取り込んだ栄養素は、血液で全身の細胞へ送ら、そこで細胞をつくる材料になったりエネルギーに変えられたりする。	生体内の化学反応について調べてまとめる。 30
14	呼吸と光合成 (2)	ヒトが食事から得ている糖やアミノ酸などの栄養素は、もとはすべて植物が生み出したものである。ここでは、植物が有機物を生み出すしくみを見ていく。	アミノ酸の合成経路について調べてまとめる。 30
15	進化	どんな生物も、その親となる生物から生まれる。ただし、地球上に最初に誕生した生物は、空気や水に含まれる物質が集合してできたと考えられている。ここでは、最初の生物がどのように誕生したかを見ていく。	地球上に最初に誕生した生物について調べてまとめる。 30

科目名	言葉と表現	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	渡部 東一郎		
開講期	I		
授業概要	社会の情報化、国際化、高齢化が進むとともに、日本語の衰退が危惧されている。事実、若い世代を中心に、国語表現力や文章表現力の低下が目立ち、ひいてはコミュニケーションにおける語彙の少なさ、言葉の乱れなどが心配されている。本授業では正しい発音・発声の方法から、言葉の正しい意味と使い方、朗読や敬語表現、文章表現などを通して、日本語表現や言葉の感受性をより豊かにすることを目的とする。また、社会人としてのコミュニケーションルールを身につけ、自らの人格を養い、他人との協調性を習得する。		
達成目標	社会の情報化、国際化、高齢化が進むとともに、日本語の衰退が危惧されている。事実、若い世代を中心に、国語表現力や文章表現力の低下が目立ち、ひいてはコミュニケーションにおける語彙の少なさ、言葉の乱れなどが心配されている。本授業では正しい発音・発声の方法から、言葉の正しい意味と使い方、朗読や敬語表現、文章表現などを通して、日本語表現や言葉の感受性をより豊かにすることを目的とする。また、社会人としてのコミュニケーションルールを身につけ、自らの人格を養い、他人との協調性を習得する。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	筆記試験50点、レポート50点、欠席は1回につき4点減点。60点以上で合格とするが、授業理解度は8割以上を求める。
教科書	担当教員作成のプリント		
参考書	その都度紹介		
学生への要望	発声、文学作品朗読、自己表現など実践練習も取り入れるので、積極的に声を出して自分を表現すること。意識して目上の人と話をし敬語に慣れる。新聞のコラム欄に目を通す習慣を養い、書き言葉を意識する。		
オフィスタイム	授業開始前：教務部控室。授業終了後30分。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	正しい日本語話していますか	オリエンテーション。授業の進め方の説明と言葉遣いに関するVTR視聴。その後自分の普段の言葉遣いを振り返って感想を話し合う。	0
2	日本語の表現と文化	日本語の特徴と文化的背景などを説明し、日常使われている「あいさつことば」についてQ&A方式でその意味などを話し合いながら考える。	0
3	日本語の語彙	日本語の語彙の特徴、語彙の体系、語の意味、文中での語の使われ方などをQ&A方式で学ぶ。言葉と意味、類義語・反意語の使い分け、外国語との対照についてもチェックする。	0
4	会話表現(1)	日常会話の中で比較よく使われる国語表現・日本語表現について、その言葉の正しい意味の理解と使い方を学ぶ。クイズ形式で進めながら、国語常識、慣用語、漢字などの国語力をつける。	0
5	会話表現(2)	慣用語、四字熟語、ことわざなど、昔ながらの日本語表現を取り上げながら、その語源や生まれてきた文化的背景などを探る。社会人の常識として覚えておきたいものを集め、就職試験対策も意識する。	0
6	呼吸と発声・発音	声を出す仕組みや姿勢との関係、母音・子音を中心とした日本語の発音のメカニズムに触れ、正しい発声・発音を実習で学ぶ。また日本語の話し方に関する現況と対策についても考える。	0
7	朗読と表現(1)	暗誦・口承文化の意義と朗読の魅力、朗読の種類と社会的意義などについて解説する。朗読表現の注意点と朗読の仕方を学び、テープで「良い朗読」と「悪い朗読」を聞き分ける。	0
8	朗読と表現(2)	声優による文学作品の朗読をCDで鑑賞し、その感想を話し合う。新聞記事、随筆、文学作品など課題として出したものの中から自分の好きなものを選び、実際に朗読にチャレンジして「声を出すことの楽しさ」を味わう。	0
9	敬語表現(1)	敬語は社会人にとって不可欠のマナー。文化庁・文化審議会による新しい敬語の分類と表現の原則を解説するとともに、ビジネスの場における敬語の使い方をVTRをまじえて学ぶ。	0
10	敬語表現(2)	日常よく使われる敬語、間違いやすい敬語に関する筆記試験を行い、その場で解答・解説をして身近な敬語の基本を身につける。新しい敬語の考え方や基本を整理。	0
11	日本語文法と表現(1)	「文法」というと無味乾燥な知識の暗記というイメージが強い。しかし我々の周りの日本語を「言葉のルール」に注目して見直すことによって、言葉のおもしろさと難しさ、日本語の奥深さを感じることができる。格助詞の使い方を学ぶ。	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	日本語文法と表現（2）	日本語の「主語」の扱いと「述語」との対応。時を表す表現。他人との対応の中での表現（依頼、命令、勧誘、推量、断定、疑問）などを学ぶ。	0
13	文章表現（1）	豊かな文章を書くためには何が必要か。情報収集、取材のあり方を考える。実際に書くときの注意点、文章表現の基本を学ぶ。400字詰め原稿用紙の使い方、手紙の書き方の原則を解説。	0
14	文章表現（2）	文章の構造、段落内の構造としての「中心文」と「支持文」の見つけ方と役割を学ぶ。またそれらの実践として新聞のコラム欄を取り上げ、内容の要約をするとともにタイトルをつけてみる。	0
15	総合まとめ	授業全体の感想と質疑応答。レポートの作成。	0

科目名	総合英語コミュニケーション	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
担当教員	ポール パーナミィ		
開講期	I		
授業概要	<p>PREREQUISITES FOR THIS CLASS: Students will have completed high school English. Students should be able to understand and use language concerning familiar, everyday topics, such as likes and dislikes. They also should be able to give basic personal and family information.</p> <p>EVALUATIONS FOR THIS CLASS: ① You should be able to give a short clear self-introduction. ② You should be able to read smoothly and understand a short passage. ③ You should be able to do basic grammar in the context of spoken and written form.</p>		
達成目標	<p>GOALS OF THIS CLASS: 1. The main focus will be to enhance key listening and language proficiency. 2. Additionally, required quizzes and homework will incorporate listening tasks to evaluate overall comprehension. There will be a cumulative final exam.</p>		
受講資格	短大1年	成績評価 方法	1. Active, Enthusiasm (20%) 2. Quizzes, Homework (30%) 3. Final Cumulative Test (50%)
教科書	Tune In 1 by Jack C. Richards & Kerry O`Sullivan		
参考書	Oxford University Press 2006		
学生への要望	<p>Don't miss class. Be attentive. Do regular listening of your audio files. Study 120 minutes of homework each class. Review all material including textbook and quiz material.</p>		
オフィスタイム	<p>Room 837: Tuesday or Thursday, 13:00~17:00 時間 : 火・木の 13:00~17:00 時限 場所 : 83年館 3F 837研究室</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	Introduction to Class	Unit 1---Meeting People---Nice to meet you. Pages 2-4 Teachers CD 1-6 Explain Textbook, Tests, Quiz, Active English Explained, External Supplement Explained. Homework, Attendance, etc.	Review the textbook. Read through pages 2-4. Listen to tracks 3 & 4. 120
2	Unit 1	Unit 1---Meeting People---See you later. Pages 5-7, Teachers CD 7-10. We will repeat this Active Learning activity in each class. First, I will read the English picture book with the students. Next, four students every class will read the book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 5-7. Listen to track 4. 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
3	Unit 1	Unit 1---Meeting People---Review Pages 2-7. Teachers CD 5-6. Quiz. Active English. External Supplements. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 2-7. Listen to tracks 3 & 4. Review supplements. 120
4	Unit 2	Unit 2---Communicating---What' s your e-mail address? Pages 8-10. Teachers CD 11-15. Quiz. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 8-10. Listen to audio track 5. Review Supplements. Review returned quiz. 120
5	Unit 2	Unit 2---Communicating---May I speak to Tony, please? Pages 11-13. Teachers CD 16-19. Quiz. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 11-13. Listen to audio tracks 5 & 6. Review Supplements. Review returned quiz. 120
6	Unit 2	Unit 2---Communicating---Review Pages 8-13 CD 11-19. Quiz. Active English. External Supplements. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 8-13. Listen to audio tracks 5 & 6. Review Supplements. Review returned quiz. 120
7	Unit 3	Unit 3---Telling Time---What time do you get up? Pages 14-16. Teachers CD 20-23. Quiz. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 14-16. Listen to audio track 7. Review Supplements. Review returned quiz. 120
8	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Are you free on Friday night? Pages 17-19. Teachers CD 24-27. Quiz. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 17-19. Listen to audio track 8. Review Supplements. Review returned quiz. 120
9	Unit 3	Unit 3---Telling Time---Review Pages 14-19. Teachers CD 20-27. Quiz. Active English. External Supplements. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 14-19. Listen to audio tracks 7 & 8. Review Supplements. Review returned quiz. 120
10	Unit 4	Unit 4---Shopping---How much does it cost? Pages 20-22. Teachers CD 28-31. Quiz. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 20-22. Listen to audio track 9. Review Supplements. Review returned quiz. 120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	Unit 4	Unit 4---Shopping---It' s just what I need! Pages 23-25, Teachers CD 32-35. Quiz. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 23-25. Listen to audio track 10. Review Supplements. Review returned quiz. 120
12	Unit 4	Unit 4---Shopping---Review Pages 20-25, Teachers CD 28-35. Quiz. Active English. External Supplements. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 20-25. Listen to audio tracks 9 & 10. Review Supplements. Review returned quiz. 120
13	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---When' s your birthday? Pages 26-28, Teachers CD 36-39. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 26-28. Listen to audio track 11. Review Supplements. Review returned quiz. 120
14	Unit 5	Unit 5---Dates & Events---So when was that? Pages 29-31, Teachers CD 40-43. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 29-31. Listen to audio tracks 11 & 12. Review Supplements. Review returned quiz. 120
15	Test Review	Textbook Summary, CD Review, Quiz Review, Test Preparation & Review. English Picture Book Presentation. Students read books in front of class, students will form unrehearsed groups as I choose to demontstrate their reading and leadership skills.	Review the textbook. Read through pages indicated to study for the final test. Listen to all audio tracks indicated during test preparation. 180

平成31年度

科目名	英語表現法	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	ダニエル ホーナー		
開講期	I		
授業概要	Outline for English Expression Methods: A. Preparations for learning English expressions. B. Learn methods and motivational techniques to become fluent in English. C. Apply active learning methods to learning English in practical areas in students' lives.		
達成目標	1. The main objective is to improve all 4 English skills (reading, writing, listening and speaking) with a focus on active learning, English expressions and speaking. 2. Students will learn methods of how to properly learn a language. 3. Another goal is to be able to express personal and cultural information.		
受講資格	短大1年	成績評価 方法	1. Participation, Attitude (10%) 2. Quiz, Coursework (40%) 3. Final Written Test (50%)
教科書	(none)		
参考書	Prints made by instructor, Daniel O. Horner.		
学生への要望	A. Participate in every class by being active learners and answer many of the questions posed. B. Always do the classwork, coursework and online listening exercises. C. For each hour of lecture by professors, students need 2 hours of preparation and review on their own. D. Study hard for the quiz and final test.		
オフィスタイム	Monday and Wednesday 5th Period (16:10 ~ 17:40), and by Appointment, 創学館4F No.3 研究室.		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	Guidance and Introduction	I will introduce the class to the students and give them guidance including how to succeed in the course and how to use the Internet and other references that are available to improve their English. Active Learning: Interview classmates to get information about names, hometowns and dreams for the future.	

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
2	Stage A - Explore language Learning	<p>Stage A: Preparation for Learning Language. Determine what type of language learners the students are by having them complete a relatively simple social activity where they get to know their classmates. They also will write a self-introduction with a minimum of 10 sentences that adequately reveal pertinent information about themselves. Active Learning: Introduce another classmate in front of the class.</p>	<p>Preparation</p> <p align="right">120</p>
3	Stage B - Organizing and Motivation.	<p>Stage B: Organizing and Motivation. Through questionnaires, I will determine, (1) how students organize their learning and (2) how motivated they are to learn. This activity will be concluded by students writing a summary of their results of these two areas of (personal) learning. Active learning: Students create learning profiles to share with the class.</p>	<p>Review</p> <p align="right">90</p>
4	Stage C - Skills Training	<p>Stage C: Skills Training. Ascertain how the students feel about learning vocabulary. I will also determine through standardized methods (quizzes) how proficient students are with vocabulary and suggest proven methods of improving their vocabularies. Active Learning: Active learning: Students prepare and give self-introductions to the class.</p>	<p>Review</p> <p align="right">120</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	120
8	Stage G - Expressions and Speaking	Stage G: Expressions and Speaking. Find out how the students feel about speaking English. Also find out what they know about the process of learning English expressions to be able to speak English. Active Learning: Participate in group discussions to state (1) opinions about Japanese English education pertaining to communicative learning and (2) methods students use to vastly improve their English communication skills. Students take quiz No. 1.	Preparation	120
9	Stage H - Speaking Levels	Stage H: Give students a practice standardized test to determine their speaking levels. Scores on this will then be used to determine what the next step should be to dramatically improve their speaking ability. Active Learning: Impromptu group presentations to ascertain depth of their English speaking ability.	Review	90
10	Stage I - English Expression Methods	Stage I: English Expression Methods. In this study on the methods of expression, based on the results of the previous practice test, students will learn how to keep a conversation entirely in English while talking with others. A video clip from the Internet on "Small Talk" will be viewed and practiced. Active Learning: In pairs, students converse entirely in English for timed periods of 1 minute on 3 topics given by the instructor (total of 3 minutes per student).	Review	120
11	Stage J - Casual Conversation and Music	Stage J: Casual Conversation and Popular Music. Students will continue to expand their use of English expressions by learning how to properly start conversations and continue them, for example, by talking about such subjects as musical preferences. A video clip pertaining to dialogues on musical preference will be viewed. Active Learning: Pair work to express musical preferences.	Prepare an essay on musical preferences.	120
12	Stage K - Personal Spending	Stage K: This part of the expressions focus on "Personal Spending Habits." Through the Internet video, students learn about and how to express ways they spend and handle money. Active Learning: In small groups, students actively listen for prices of various things and show the correct amounts of banknotes and coins.	Review	90
13	Stage L - Leisure Activities	Stage L: Leisure Activities: This part of the course allows students to view a video and practice expressions pertaining to "Leisure Activities" and "Shopping for Fashionable Clothes." Students also learn expressions that are useful when accepting and refusing invitations. Active Learning: Give presentations in small groups on leisure activities and preferred clothing.	Preparation	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	Stage M - Discussing Good Memories	<p>Stege M: Good Memories: Students view the Internet video clip and then use that as a basis to talk about special memories and events.</p> <p>Active Learning: In small groups, discussions on the most important memories and events in their lives thus far. Following this, we will begin a comprehensive review of the entire course.</p>	<p>Review</p> <p align="right">90</p>
15	Final Stage - Review for Final Test	<p>Final Stage: We will conduct a comprehensive review of the course and and its "Stages A-M." To consolidate and solidify the review, the students will view one final Internet conversation titled, "Effective Study Methods."</p> <p>Active Learning: Students engage in pair work to review and quiz each other on the coursework studied this past year.</p>	<p>Study, review and prepare for final test.</p> <p align="right">240</p>

科目名	健康スポーツ論	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
担当教員	佐藤 浩明		
開講期	Ⅱ		
授業概要	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、スポーツの意義、特性を理解し、生涯にわたって自ら健康について考え行動できる力を習得する。また久光製薬スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。 ①運動と健康の関連を理解し、エクササイズの方法や身体についての基礎知識を学びます。 ②スポーツの意義を理解し、自分の健康や行動のありかたについて学びます。		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける		
受講資格	幼児教育学科 1年生 ※教職課程履修者は必修	成績評価 方法	レポート60点 平常点 40点（取組姿勢・提出物）
教科書	特になし（必要に応じて資料、課題を配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「メンタルトレーニング：ベースボールマガジン社」「教養としてのスポーツ科学：大修館書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。		
オフィスタイム	火・水・木の9:00～16:00まで創学館N04研究室（佐藤）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリンピックについて	オリンピックの歴史と現状やオリンピズム、オリンピック憲章について学び、スポーツが持つ魅力について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
2	生活と健康について①	《健康とは何か》 健康について考える導入として「健康の定義」をWHO（世界保健機関）の憲章をふまえた様々な角度から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
3	生活と健康について②	《生活習慣病の原因・対策・予防と運動》 ①生活習慣病の原因と予防、対策について理解し運動との関係について学びます。 ②運動・休養と健康の関係について学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
4	生活と健康について③	《大学生の健康》 大学生の生活に潜む健康を害する危険について理解し、セルフライフマネジメントについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
5	生活とスポーツについて①	《スポーツとは何か》 スポーツの意味を理解し、スポーツの社会的価値とスポーツに期待されることについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
6	生活とスポーツについて②	《生涯スポーツについて》 生涯スポーツに関わることが自分の健康や生涯の楽しみにどう影響するのか、①行う ②観る ③支える ④調べるの視点から学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
7	生活とスポーツについて③	《大学生とスポーツ》 大学生になり、高等学校まで必修で行われてきた体育の授業は著しく減少します。その中で自分の健康について興味を持ち、運動やスポーツについてどう関わることができるかについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30
8	スポーツから学ぶ①	《フェアプレーについて》 スポーツは定められたルールの中で勝敗を競い合うものです。それは日常生活や普段の行動にも通じるものがあります。ここではスポーツの中からフェアプレーについて学びます。	脈拍130前後の運動を30分以上行う 30

科目名	スポーツ実技	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
担当教員	佐藤 浩明		
開講期	I		
授業概要	生活の基盤となる『健康なからだづくり』に欠かすことのできない運動の重要性や楽しさを理解し、生涯にわたって自分の健康や体力について配慮ができ、それらを保持増進していくために必要となる知識や方法について実技を通して学びます。また久光製菓スプリングス女子プロバレーボールチーム、オランダナショナル女子バレーボールチームの監督、コーチ実務経験を活かしコミュニケーションや協調性を指導します。 ①運動の重要性を理解し、健康との関連について学びます。 ②運動を通して、協調性、コミュニケーション能力、フェアプレーの精神について学びます。 ③運動を通して基礎体力の維持、向上する方法について学びます。		
達成目標	健康的な生活に欠かすことのできない運動の方法や効果、自ら健康について考え行動できる力を習得する。スポーツ種目に必要な技術を習得すると共にコミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知り人間力を身に付ける		
受講資格	健康栄養学科 1年生	成績評価 方法	取組姿勢40点 実技試験60点 ※本科目は実技科目のため出席、積極的な取組みを重視します)
教科書	特になし（必要に応じて資料等配布します）		
参考書	「健康・フィットネスと生涯スポーツ：大修館書店」「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ：(財)日本体育協会」「スポーツトレーニング理論：日本文芸社」「ストレッチメソッド：高橋書店」		
学生への要望	自分の生活習慣に興味、関心を持ち、運動する習慣をつけてほしい。 【授業中】積極的に取組み、運動を楽しむこと。タオル、水分は各自で必ず持参すること。（体調管理および熱中症対策）		
オフィスタイム	火、水、木の9:00～16:00まで 創学館N04研究室 佐藤		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	ガイダンス	①授業目的、内容、進め方、評価方法の説明 ②服装、準備物の確認（注意事項含む） ③グループ分け	30
2	縄跳び①/からだづくりの運動	【テーマ：運動習慣をつける第一歩として、コミュニケーションゲームやレクリエーションで楽しくからだを動かす】 【到達目標】 * スポーツ種目に必要な技術を習得する * コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コミュニケーションゲーム・体ほぐしの運動 ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	30
3	縄跳び②/からだづくりの運動	【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】 【到達目標】 * スポーツ種目に必要な技術を習得する * コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る ①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
4	縄跳び③／からだづくりの運動	<p>【テーマ：楽しくからだを動かしながらコーディネーショントレーニングで、からだの調整力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②コーディネーショントレーニング ③レクリエーションゲーム ④からだづくりの運動 ⑤縄跳び（個人およびグループ） ⑥クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p align="right">30</p>
5	フライングディスク④／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p align="right">30</p>
6	フライングディスク④／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p align="right">30</p>
7	フライングディスク④／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p align="right">30</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
8	フライングディスク④／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p align="right">30</p>
9	フライングディスク④／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ニュースポーツのフライングディスクで動きながら二つの動作ができる能力を養う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④フライングディスク（グループ対抗戦） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p align="right">30</p>
10	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーションを発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p align="right">30</p>
11	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーションを発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p align="right">30</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
13	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
14	ソフトバレーボール⑤／からだづくりの運動	<p>【テーマ：ソフトバレーボールを通じてフェアプレーを学びコミュニケーション発揮し楽しみながらグループで行う】</p> <p>【到達目標】 *スポーツ種目に必要な技術を習得する *コミュニケーションを発揮しスポーツ種目の楽しさを知る</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②からだづくりの運動 ③レクリエーションゲーム ④ソフトバレーボール（パス・レーシーブ・アタック・ミニゲーム） ⑤クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑦体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>
15	実技のまとめ	<p>《まとめとして実技試験を行う》</p> <p>①ウォーミングアップ（準備運動・動的ストレッチ） ②レクリエーションゲーム ③実技試験 ④クーリングダウン（静的ストレッチ・からだのケア） ⑤体育館清掃</p>	<p>ストレッチ、準備運動を行う。タオル、水分を準備する</p> <p>30</p>

科目名	情報処理 I	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	石原 正道		
開講期	I		
授業概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成について学習する。		
達成目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。		
受講資格	なし。	成績評価 方法	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は課題1を20%、課題2を40%、課題3を40%とする。
教科書	イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル、noa出版 (2016)		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
オフィスタイム	月曜日 16:10-17:05, 情報処理教育研究室 金曜日 14:30-16:00, 情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先 m_isihar@koryama-kgc.ac.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目		授業内容	
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。	復習として次のことを行うこと。 ・Webメールから携帯電話へメールを送信する(正しく着信することを確認する)。 ・携帯電話からWebメールのアドレスへメールを送信する。メールが転送されることを確認する。	45
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえた上で、インターネットを利用する上での注意事項について触れる。	復習として、次の点についてまとめること。 ・URLの構造 ・インターネットを利用する際に注意すべきポイント	45
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、TO, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。また、安全に Email を利用する方法やまたローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。	復習として、Emailアドレスの構造とTO, CC, BCC の違いをまとめること。	30
4	課題1	インターネット(ブラウザ・メールなど)の用法について、正しく利用できるか確認をする。また次回以降の教材の準備を行う。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/download/	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	30
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いてWord STEP2 確認テスト1を実施すること。	20
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めとした図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いてWord STEP2 確認テスト2を実施すること。	20
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いてWord STEP2 確認テスト3, 確認テスト4を実施すること。	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
9	表の作成	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、オートフィルや書式の設定などについて学ぶ。	復習として、授業内でオートフィルの機能を用いて作成した連続データを、再度作成してみる。	30
10	計算とアドレス	数式を用いた計算方法を学ぶ。特に表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.140までを読んでおくこと。	30
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.152までを読んでおくこと。	30
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いてExcel STEP2 確認テスト5, 確認テスト6を実施すること。	30
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。	復習として、eLearning Systemを用いてExcel STEP3 確認テスト1, 確認テスト2を実施すること。	30
14	課題3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ	予習として、パワーポイントに関する章を読んでおくこと。	30

科目名	キャリアデザインI		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡, 安田 純子, 堀 琴美, 長谷川 貴弘, 知野 愛, 富士盛 公年			
開講期	I			
授業概要	<p>本学におけるキャリア教育は、「一人一人の社会的自立に向け、生涯を通して自己を磨き続けることができる能力を育成するための教育」と定義されます。本授業では、まず大学生として学ぶ姿勢の基本を身につけることで、「つくる力」(創造力、論理的思考力、表現力)と「かかわる力」(主体的行動力、コミュニケーション能力、倫理・道徳観)という社会で活躍するための基礎力を確認し、主体的に大学生活を送ることで各自のライフキャリアを構築できるようにします。</p>			
達成目標	自分の夢を実現するための具体的な目標をキャリアプランニングの意識を持って自主的にレポートにまとめることができる。			
受講資格	特になし	成績評価 方法	授業時のワークへの取り組み状況(使用教材集提出)と提出物(第6回授業の課題レポートと第14回授業のレポートなど)から「認」評価を判定する。	
教科書	教材集『キャリアデザイン—大学の教養・キャリア教育のスタートをバックアップ!』配布			
参考書	授業中に適宜提示する。			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やインターネットなどのメディアには、有益な進路情報がたくさん掲載されています。定期的に目を通すことで、労働環境や職業社会の実態を把握し、自分の意見を整理してみましょう。 ・自分自身の進路について、周囲の友人や家族と日常的に話してみましょう。また、身近にいる社会人から仕事や家庭生活に関する話を聞いてみることも、進路を考える上でヒントになります。 ・就職部の実施する就職ガイダンス・各種模擬試験・インターンシップなどの活動に積極的に参加しましょう。 			
オフィスタイム	全体のコーディネーターは桑野が担当する。 火曜Ⅱ時限目(10:30~12:00)・金曜Ⅴ時限目(16:10~17:40) 考古学研究室(83年館1階)。 その他、各担当教員の指示に従ってください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	オリエンテーション—キャリアデザインの意義と目的 4月9日	本講義の目的・意義・内容・計画を理解した上で、「キャリア」とは何か、「キャリアをデザインする」とはどういうことかを考えます。	自己評価票を真摯に記入し、現時点での自分をよく観察してみましょう。
2	郡山女子大学を知ろう—建学の精神と学園の歴史 4月16日	学園の歴史と建学の精神の基本的な考え方を解説します。	『開成』を読み返し、図書館で『学園史』を手にとったり、集会などで学科のアドバイザーの先生と建学の精神について話し合ってみてください。
3	「つくる力」を育てる(1)—情報を読む力・まとめる力 4月23日	講義から情報を読む力(聴く力・ノートにまとめる力)をトレーニングします。	講義を聞く姿勢、ノートの取り方の基本は同じでも、詳細は科目によって異なります。自分でも工夫を心掛けてみましょう。
4	「つくる力」を育てる(2)—書く力・伝える力の育成 5月7日	レポートの書き方を手掛かりに事実と意見の違いや「きちんと考える」ことの必要性を確認します。	新聞や参考文献、友人や家族と話し合ってみて、レポートの構成を良く考えましょう。
5	「つくる力」を育てる(3)—社会でのパソコン活用マナー 5月14日	メール作成の方法、添付ファイルの方法、パソコンによるレポート作成の方法を基礎から学びます。	パソコンを用いてレポートを書いた後、提出前に必ず読み直しをして「推敲」しましょう。
6	「かかわる力」を育てる(1)—多様なライフコース 5月21日	女性のライフコースの多様な選択肢をワークライフバランスに着目して考えます。	現時点の自分の考えを確認すると共に、家族や友人と意見交換をして、異なる意見に沢山出会ってください。
7	「かかわる力」を育てる(2)—男女の働き方、ワークライフバランスを考える 5月28日	前回の授業を受けて、長いキャリアの中でパートナーや家族と共に生活する上での諸問題を考えます。	男女に拘らず、複数で共同生活することは、私たちの社会生活の基本であることを自覚して、創造力を発揮して話し合しましょう。
8	「かかわる力」を育てる(3)—お金から考えるライフプランニング 6月4日	長いキャリアを生きる中で、私たちは多くのライフイベントを経験し、生活共同体の中での役割を変化させていきます。その時々状況をお金の面から考えます。	講義の後、自分自身や家族の貯金・保険・年金などについて実際に具体的な話をしてみましょう。
9	「かかわる力」を育てる(4)—働くためのルール 6月11日	労働法の基礎知識から働く上での諸問題への対応方法を考えます。	講義の後、自分自身のアルバイト経験や家族の働き方について話をしてみましょう。
10	「かかわる力」を育てる(5)—アサーショントレーニング① 6月18日	堂々と自分の意見を述べるために必要なアサーションの考え方の基本を学びます。	アサーションは、自分自身が考え納得して行動することが大切です。表面的なテクニックだけでなく、よく自分の内面と向かい合ってみてください。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
11	「かかわる力」を育てる(6) -アサーショントレーニング② 6月25日	アサーションの技術を向上させる。I・Youメッセージを学びます。	アサーションは、自分自身を守るためだけでなく、相手のことを考えることに繋がります。周りの人とよく話し合ってみましょう。	60
12	「かかわる力」を育てる(7) -働くこと、生きることを考える 7月2日	働き続けることを「ライフキャリアの虹」を用いて解説し、職業レディネステストを実施して分析します。	職業レディネステストのワークをよく見直し、職業適性検査やさまざまな情報と比較検討してみましょう。	60
13	総合演習(1) -女性と就業について① 講演 7月9日	素敵な生き方を実践している外部講師による講演を実施します。	講演を傾聴し、講演後はSNSや新聞などで講演者や時代、事件などについて調べてみましょう。もっと多くのモノが見えてきます。	60
14	総合演習(2) -女性と就業について② グループ討論 7月16日	前回の外部講師の講演を踏まえて討論し、レポートを作成します。	半期の授業も終盤です。自分の学びの総まとめとして積極的に討論に参加できるように準備しましょう。	120
15	まとめ -自分のキャリアを創ろう! 7月23日	自己評価票の記入・授業アンケートを実施し、「マンダラチャート」を作成して各自のキャリアプランの作成を試みます。	初回の自己評価票とじっくり比較すると共に、「マンダラチャート」で次の具体的な一歩を明確にしましょう。	60

科目名	キャリアデザインⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
担当教員	森 みい		
開講期	I		
授業概要	<p>【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。</p> <p>【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期7回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者をお招きした報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。</p>		
達成目標	<p>【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることをことを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、責任の重さや成し遂げる充実感や社会への貢献を感じ取る事を目的とします。</p>		
受講資格	特になし	成績評価 方法	就業体験50%・授業参加30%・報告会20%から「認」評価判定
教科書	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
オフィスタイム	月曜日 9:00～12:30 水曜日 9:00～12:30 事前にご相談いただければそれ以外でも対応します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	インターンシップの概要 4/18 (Vコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認。	0
2	インターンシップの心構え 5/16 (Vコマ)	インターンシップの取り組みを動画を見て、ワークを実施しながらインターンシップの考えを深化させていく。(ムビケーションの実施)	0
3	企業研究 (講演) 5/30 (Vコマ)	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、自立した個人として人生をどういきるかを考えながら、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていく。	0
4	事前指導 (ビジネス文書作成) 6/27 (Vコマ)	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	0
5	事前指導 (マナー講座) 7/11 (Vコマ)	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。就業体験先の打合せをする。	0
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究)7/25 (Vコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	0
7	インターンシップ(就業体験) 1班 8/19～8/23・2班8/26～8/30	各企業において、夏季休業中(8月中旬～下旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	0
8	インターンシップ報告会 9/5 (Iコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。	0
9	インターンシップ報告会 9/5 (IIコマ)	事後報告会として、企業の方をお招きして報告会を実施する。実習日誌を提出する。	0

平成31年度

科目名	芸術鑑賞講座・教養講座Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 1年 0.5単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 1年 0.5 単位 必修
担当教員	アドバイザー			
開講期	通年			
授業概要	<p>芸術は人間存在や世界の真相をありありと感じさせるものである。高度な芸術に接して感動することにより、人間として最も大切な感性を磨き、豊かな人間性を育てる。</p> <p>教養は個々の専門知識を縦横に関連づけ、創造的な思考を導くものである。一流の文化人の講演を聴き、個々の人生について深く思慮する力をつける。</p> <p>芸術鑑賞講座として、年に4回、一流のアーティストや作品を学内に招き、全学で感動を共有する。</p> <p>教養講座として、年に3回、一流の文化人を招き、全学で講演を聴く。</p> <p>芸術鑑賞講座と教養講座併せて予定の7回のほか、「特別教養講座」を行う場合がある。</p>			
達成目標	心豊かな、人の役に立つ人生について、考えを深める。			
受講資格	本学の全学生	成績評価 方法	認定科目 感想文の提出による。	
教科書	リーフレット、講演資料			
参考書	図書館で関連図書を展示する。			
学生への要望	自分でも積極的に調べ、毎回きちんと感動及び考えを文章にすること。			
オフィスタイム				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	第1回 教養講座 4/22	作家 玄侑宗久氏 講演		0
2	第2回 教養講座 5/27	読売新聞特別編集委員 橋本五郎氏 講演		0
3	第205回 芸術鑑賞講座 6/19	「野村万蔵 狂言」		0
4	第206回 芸術鑑賞講座 7/4	ジャンヌ・ダルク		0
5	第3回 教養講座 9/18	福島県立医科大学 大平哲也教授 講演		0
6	第207回 芸術鑑賞講座 10/8~10/13	「浮世絵展」		0
7	第208回 芸術鑑賞講座 10/25	「ソフィア・ゾリスデン 名曲の花束」		0

平成31年度

科目名	芸術鑑賞講座・教養講座Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 健康栄養学科 2年 0.5単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 0.5 単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 0.5単位 必修
担当教員	アドバイザー			
開講期	通年			
授業概要	<p>芸術は人間存在や世界の真相をありありと感じさせるものである。高度な芸術に接して感動することにより、人間として最も大切な感性を磨き、豊かな人間性を育てる。</p> <p>教養は個々の専門知識を縦横に関連づけ、創造的な思考を導くものである。一流の文化人の講演を聴き、個々の人生について深く思慮する力をつける。</p> <p>芸術鑑賞講座として、年に4回、一流のアーティストや作品を学内に招き、全学で感動を共有する。</p> <p>教養講座として、年に3回、一流の文化人を招き、全学で講演を聴く。</p> <p>芸術鑑賞講座と教養講座併せて予定の7回のほか、「特別教養講座」を行う場合がある。</p>			
達成目標	心豊かな、人の役に立つ人生について、考えを深める。			
受講資格	本学の全学生	成績評価 方法	認定科目 感想文の提出による。	
教科書	リーフレット、講演資料			
参考書	図書館で関連図書を展示する。			
学生への要望	自分でも積極的に調べ、毎回きちんと感動及び考えを文章にすること。			
オフィスタイム				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	第1回 教養講座 4/22	作家 玄侑宗久氏 講演		0
2	第2回 教養講座 5/27	読売新聞特別編集委員 橋本五郎氏 講演		0
3	第205回 芸術鑑賞講座 6/19	「野村万蔵 狂言」		0
4	第206回 芸術鑑賞講座 7/4	ジャンヌ・ダルク		0
5	第3回 教養講座 9/18	福島県立医科大学 大平哲也教授 講演		0
6	第207回 芸術鑑賞講座 10/8~10/13	「浮世絵展」		0
7	第208回 芸術鑑賞講座 10/25	「ソフィア・ゾリスデン 名曲の花束」		0